

### 只見野鳥雑記 ④

#### ワシタカ王国・只見

福島県ではじめてイヌワシが繁殖したのは、柳津町・昭和村・会津美里町の境界にそびえる博士山とされています。博士山で最初にイヌワシを見つけたのは、イヌワシを専門に調査している民間団体、日本イヌワシ研究会の会員だった寺園昭宏さん(故人)でした。一九八四年七月二十九日、二羽のイヌワシが博士峠の上空を飛翔するのを発見したのです。当時、イヌワシといえは、めったに見られる鳥ではなく、それ以降、博士山での観察が継続して行われるようになりました。そして、一九九三年六月十七日、

二羽の幼鳥が巣立つのを、日本イヌワシ研究会の小島幸彦さんが確認しました。小島さんは、地形的な面から只見町がイヌワシの生息に適しているかと判断して、何度も通いつめ、とうとう繁殖を確認したので、博士山より一年早いわけですが、この記録は公表されずに今日に至っています。知られてしまうと、人が押しかけて育雛を放棄してしまうことがあるからです。小島さんは一九九四年六月にも只見町内で二回目の繁殖を確認しています。

日本イヌワシ研究会は、一九九六年七月、只見町を含む奥只見地域(新潟県旧湯之谷村、旧入広瀬村、旧大和町、福島県檜枝岐村)で大規模な合同調査を行い、二三つがいのイヌワシを確認しました。さらに

只見町には、イヌワシのほかにもオジロワシ、クマタカという大型の猛禽類が生息しています。さらにハチクマ、オオタカ、ハヤブサ、ミサゴ、ノスリ、サシバ、トビなどの中型の猛禽類、ハイタカ、ツミという小型の猛禽類も確認されています。



▲アオサギのヒナを襲うイヌワシ

森林総合研究所東北支所の由井正敏さん(当時)によって二羽のヒナの巣立ちが確認され、これをもって福島県におけるイヌワシ繁殖の公式記録となっています。しかし、その前年、イヌワシは只見町で繁殖していたのです。それは一九九二年六月一日の早朝のことでした。

日本イヌワシ研究会は、一九九六年七月、只見町を含む奥只見地域(新潟県旧湯之谷村、旧入広瀬村、旧大和町、福島県檜枝岐村)で大規模な合同調査を行い、二三つがいのイヌワシを確認しました。さらに当年生まれの幼鳥が四羽、一〜三歳の若鳥が三羽、合計三三羽も発見され、この地域が国内でも高密度の生息地であることがわかりました。全国でも約二〇〇つがい、五〇〇羽ほどしかいないとされるイヌワシが、これほど多く生息しているという事実は衝撃的でした。それまでは岩手県の北上山地や三重



▲絶滅危惧種のサシバ

これら多種類の猛禽類が生息する只見町は、ワシタカ王国といってもよいでしょう。猛禽類のほとんどの種が絶滅する危機にあるといわれる現在、只見町にこれほど多くの種類の猛禽類が高密度に生息しているという事は、とりもなおさず、只見町の自然環境が多様で豊かであることを証明しています。